



ぐしちゃん芋生産組合の会長を務める安里美津男さん(右)と妻の喜美子さん



リピーターも多いという芋掘り体験



島尻マージの土壌で育った「ぐしちゃん紅」



良質なぐしちゃんの芋を使用した芋焼酎「紅一粋」

舞台3 農業

人を結び
地域をつなぐ
ぐしちゃん
芋生産組合

農家と企業が開発した焼酎で 足腰の強い産地づくり

八 重瀬町の南西部にある安里、仲座、与座は、芋の栽培に適した土壌を有し、県内でも有数の甘藷地域です。もともと芋は以前から栽培されていましたが、平成十七年に芋生産組合が設立されたのをきっかけにして同年、県の拠点産地に認定。芋掘り体験や芋料理の開発など活発な活動が行われています。組合を立ち上げた会長の安里美津男さんは、「生産者と地域が一体となっている

のを実感できるようになった。」と組合の活動に手ごたえを感じています。同組合が実施する芋掘り体験は、リピーターも多く順調に受け入れ人数を増やし、平成二十年には三ヶ月間で七千人が参加しました。芋の宣伝と同時に副収入にもなり農家の経営を支えています。また、近年、町内のヘリオス酒造と同組合が協力して開発した芋焼酎「紅一粋」は、県内で初めて芋を使用した焼酎と

して話題を呼んでいます。「紅一粋」は同組合が栽培した芋を原料にした製品。芋の県外出荷が植物検疫により厳しく規制されている芋生産農家にとっては、焼酎の原料として使うことで安定した供給体制が見込め、良質の芋の栽培にこれまで以上にやる気を見せています。安里さんは「焼酎づくりで足腰の強い産地づくりができる。」と「ぐしちゃん紅」の生産拡大とブランド化に大きな期待を寄せています。



ピーマン専門部会の会長を務める新里聡さん



県内生産量の6割を占める八重瀬町産のピーマン「ちぐさ」

舞台2 農業

環境にやさしい農業を
目指すピー
マン専門部会

地道な取り組みが実った 大きく甘いピーマン まちの協力も追い風に

八 重瀬町の具志頭地区はピーマン栽培が盛んな地域です。生産量は、県全体の六割を占め、平成十八年には、県から拠点産地認定を受けました。これを機に生産農家は、ブランド化や販路拡大に向けて今まで以上に意欲を見せています。

生産の中心になっているのは、JAおきなわ具志頭支店ピーマン専門部会。農薬と化学肥料の使用を減らした環境保全型農業に取り組み、効率的なピーマン栽培に成功しています。平成十六年に四名しかいなかったエコファーマー認定士も平成二十年には六十六名に増え、組織的に環境にやさしい農業が取り組まれています。平成二十一年二月には、自然に配慮した農業が高く評価され農林水産大臣賞を受賞しました。部会長の新里聡さんは「定期的に勉強会をもち、生産技術を部会全員で高め合ってきた。地道な取り組みが実った。行政や農協など関連団体の協力も大きい。」と受賞を喜んでいきます。八重瀬町のピーマンは、肉厚で大きく甘みがあるのが特徴です。町内の小学生にも人気があり、小学校でピーマンの収穫体験や

ピーマンの歌が作られCD化されるなどピーマンの話題が続きません。地元の南部商業高校では、食品会社と合同でピーマンを使った麺を開発し、規格外で流通に載せられないピーマンの有効活用について新しい可能性を見せられています。地元農家の地道な取り組みに、まちをあげての協力が追い風となり、生産拡大、県外への販路拡大に向け、大きく動きだしていきます。



具志頭小学校で児童たちが作詞した歌「ハッピーマン」がCD化



南部商業高校で規格外のピーマンを使った麺「びーめん」を開発



環境にやさしい農業が認められ農林水産大臣賞を受賞したピーマン専門部会と関係団体一同



新城小学校の収穫体験でピーマンについて学習する児童たち